



Institute Agro Dijon, University of Burgundy

●学部学生 約16,800人 ●大学院生 約10,700人 ●教職員 約2,900人

ホームページ <http://www.agrosupdijon.fr/en/>

交流協定締結年月日：2010年6月1日 主管学部：農学部



ディジョン市内のメインキャンパス



学生実験の様子

国際交流の特色

ブルゴーニュ大学Agrosup Dijon校は、食品科学・工学の3年間およびPh.D.コース3年間の教育研究機関であり、フランス全土から2年間の大学（もしくは大学相当）の基礎教育を受けた学生が入学している。母体のブルゴーニュ大学は学生数約27,500人、教職員数約2,900人の大規模総合大学である。Agrosup Dijon校は学内での教育のみならず、在学3年間に約5ヶ月間のインターンシップ（研究および企業実務）を経験することを必須としており、「知と実践の融合」を掲げる本学の意図と極めて良く一致している。国際交流も活発であり、約59の海外の大学との交流を実施している。

交流実績（平成31年度～令和3年度）

年度 受入・派遣	H31	R2	R3
学生の受入	1	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）		0	0
オンライン交流参加者（相手機関）		0	0



Agro Dijon留学生の送別会

留学生からの声

I am Clémence Taboureur, an engineering student at the Institut Agro Dijon in France. For my last year, I choose to aim for a double degree by enrolling in an international master course which major was Microbiology and Physicochemistry for food and wine processes (MP²). To complete these degrees, I had the opportunity to go abroad. Luckily, I could have the contacts of Professor Yonekura through my institution as a senior came to Kagawa University few years before. From April to October 2022, I have been working under the supervision of Professor Yonekura and Assoc. Professor Kong to study the deglycosylation of gastric mucin. I am so grateful for all the knowledge they gave me and for all the great people I have met during these 6 months. Japan is truly a country I love, and I hope to come again soon.

Clemence Taboreur-Vitry (2022年 Institut Agro Dijon)

教員からの声

ブルゴーニュ大学からの国際インターンシップ学生を毎年1-2名農学部で受け入れ、半年間の研究活動を中心に行っています。平成22年度に交流協定が締結され、この学生交流及び研究交流を香川大学において継続するとともに、より多くの領域の学生、研究者交流を期待しています。令和2-3年は新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、留学生受け入れができなかったのですが、令和4年には1名の大学院生を受け入れました。機能性物質の吸収に関わるムチンに関する研究に従事しました。フランスの学生との交流を活発に行いたいと考えています。

農学部教授 米倉 リナ